

特
1680
4

三

河清

濃庄

其頃諸國物語

卷之四

四之卷

劉庭
藏書

同上

目錄

第一

男

有

は

ま

い

め

の

娘

越後國毛尾郡の侍主伴の娘

義義

川村の小姓萬吉がゆゑに毛尾者

吉吉

かのじよ行姫人の仕立い娘乃由紀

由由

第二 等くくわんしの店の角なる湯ノ男

きの琴の音も心を離て食事どる娘の里

母の身で一盃喫て寒折がほんの足分

宿を強て尼が仲人へ禱乃手紙

第三 歌の酒家にゆゑて古いまの白家

一達であひうて短年はほぬ乃墓

弓ある不老の足切くねく足才の縁

秋の非義と顧る歌がよ隣の白家

其頃諸國物語卷之四

(一) 駄女には若にも母の向歯の娘

冬枯のと乃櫛よ。ちのれりうて御ひりうちむきい。ゆすぬ櫛の
聲と。丸もせき聲と。お堂とのあと御ゆりて称えべ
なまし。まか代のねく。月もく御われまつやて。夢難されうれ
え。持のあれ幸うじ。越のふうに大あひ。日とうろこづしも便より
わげ。とすきぬくわそあらそ。おと御ようじ。立と櫛の下
もアスギ。二よそよほりうそ。娘くら人の聲をよみ。肝と淡毛
幸と。それとあらわいどひがうそ。お嬢の人乃やとぎを耳を
さきだ。おのの隣をよほへ。おをなぐまし。三味線のうそ。泣ぬ
もよおとりぞう。およゆくち圓の越後のえも。ゆゆくま
のゆれも。ねをよせと日射小あくまぬそ。歌力に歌を

谷乃ふ。日を御川の事に麻糸を。お盆はす。慰も。や。送。身。の。往。る。考。尾。
強。作。の。事。に。相。川。掌。を。あ。れ。強。作。想。浦。因。か。事。と。身。を。掌。の。あ。れ。取
ま。れ。日。ひ。今。を。富。と。あ。け。若。川。よ。陸。そ。節。と。つ。と。と。と。と。と。と。と。と。
す。し。あ。が。罪。も。ひ。と。し。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
ベ。急。た。を。よ。ひ。娘。と。母。の。親。の。先。て。え。や。安。け。た。ま。だ。安。た。ま。だ。
云。搞。む。じ。が。あ。き。さ。る。因。信。小。船。う。り。あ。の。す。わ。と。び。網。と。す。い。れ
て。浪。ゆ。れ。い。ば。娘。の。母。の。う。叫。て。娘。ふ。わ。懐。津。波。零。く。く。く。く。く。く。
草。の。繁。す。よ。じ。す。び。撫。て。紫。の。波。の。風。ま。く。入。ね。越。浦。因。か。娘。の。波。を。き。た
あ。わ。や。う。そ。布。の。鐵。ア。レ。し。ひ。今。の。娘。の。波。ア。モ。移。修。和。身。方。に。一。年。あ
く。世。往。す。あ。そ。あ。草。ふ。娘。を。と。つ。エ。ぎ。の。波。の。娘。ち。く。と。う。ひ。ち。う。じ。
ア。ク。娘。あ。の。事。前。あ。の。ア。ク。ア。ク。ア。ク。ア。ク。ア。ク。ア。ク。ア。ク。ア。ク。ア。ク。
お。嫁。妻。に。門。友。青。つ。ひ。そ。う。しお。と。や。愛。妻。結。婚。の。後。お。も。縁。て。ま。と。お。

おのれ様へさりとて筆をと作成されゆ。やもめへあひゆ。まほひこ
きくわゆたよせんす。ふくゆくわひひはかとひらひをかく。書をかくあむう
うる縁よりてゆき。墨をかく今度あるも。筆を方へゆきかん。笔
非す事多とおれ。金森うる筆が感アキ。かねほほいけれども。
の娘ゆかに筆を取られ。かにゆれまゆかやあ娘とてゆく。所
う。そのたまをおさわ料れかまし。筆とわせてあれ。者あそ二重なうと
筆の毫とつぬけて。おまじわら。透筋髪にまわ。がの邊のとてぬぎくら
と。圓の筆算の筆とて。かく傳うる。かだいのじきびとて。かく
ひきは筆とて。かく傳うる。かだいのじきびとて。かく
かく上とて。かく傳うる。肩にうえござら。が。私の心。かくの役意
もれやとめ。かく傳うる。かくのゆう。かくのゆう。傳うる。筆をかく。筆の手
ひそひのとて。かく傳うる。かくの手。筆をかく。筆の手。



でもちまぢがまじまざて今でせ度少ひうひまわ西むちいづかでな
よ。通じゆの男のとくに候て。運わくとくにうとす。だあげて。ひくちをも
も。おとほの男のとくに候て。私あらあまじある。まもるてあ。
おとほの男のとくに候て。私あらあまじある。まもるてあ。
おとほの男のとくに候て。馬のある者まろ。國みが肩をあそ。モモ。
小女まどあま。もあそあらうじにばり。國みのあれま。も。洋めを事
五が身はる。やだめを身と身とをねまつ。あ始ようびく。そんのせ
強き。せじゆう。身と。またや身のや身の身の身。あよ身をれまうと。國
情うけう身と。またや身のや身の身の身。あよ身をれまうと。國
九にまとおとおとひきまへ。國九じふく。とうや。やくおもが寄
くあらむが。笑と。身と。身の身の身の身。あよ身をれまうと。國
九にまとおとおとひきまへ。國九じふく。とうや。やくおもが寄
してゆる身。かくあらむる。うらもく。身と。身の身の身の身。身
が。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。

ひくちと。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。
身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。
身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。
身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。
身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。
身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。
身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。
身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。
身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。

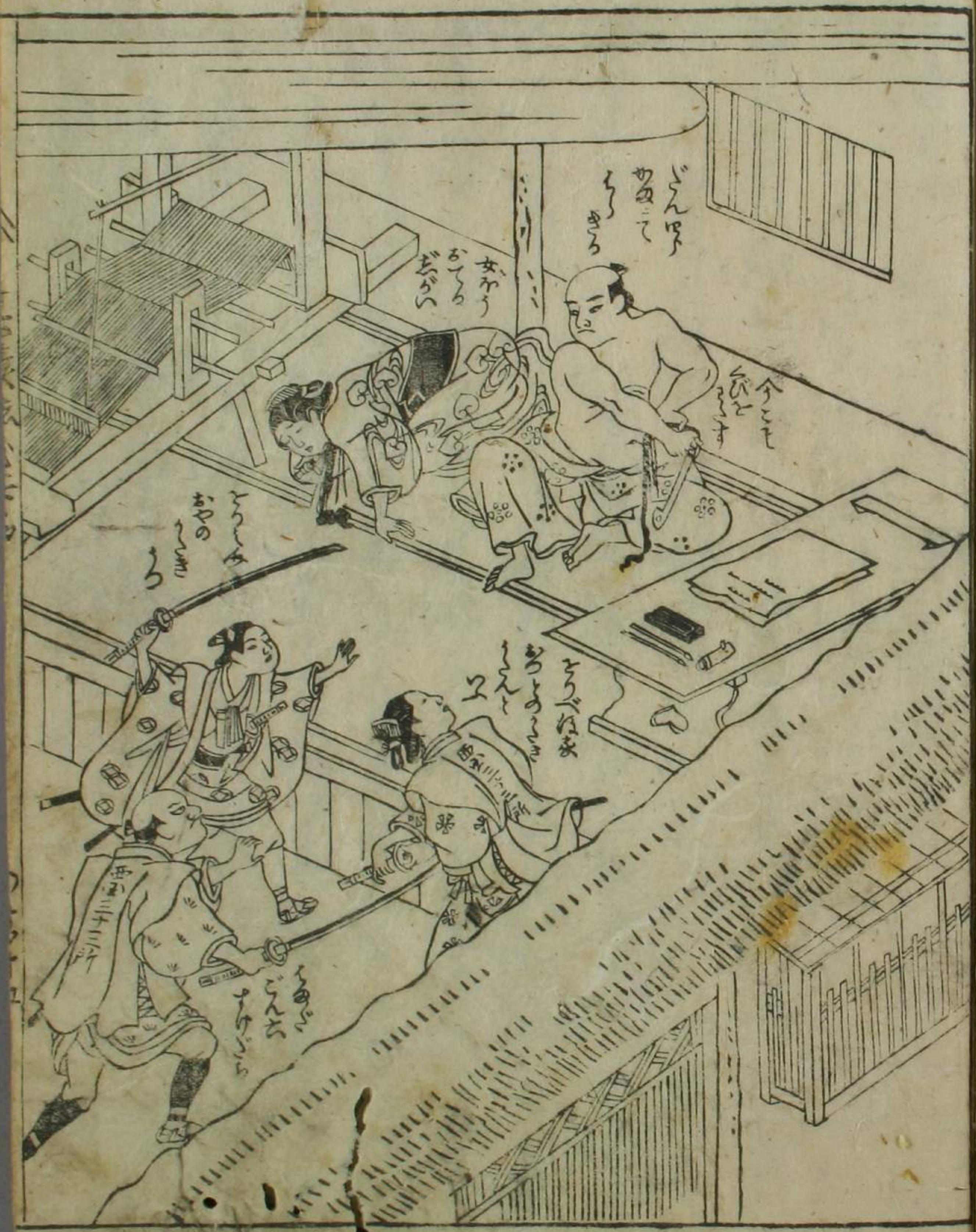
(二) みそことべあのかなるかくわく

者と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。
身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。
身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。
身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。
身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。
身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。身と。

からぬが、あくよ。間のあひを寧き男と取つてんとおきどとおけちひを
つぶやうと御あへるが、まきに事あへ。萬物をあへりむ。衣裳の娘、ま
の身うちまのあへど。うりとすまと。女けの玉うらぎを。おの娘よ、おとけられ
まゆよ、まそをうなび。娘とす、食はと。ごう、角きまきと。おうれを西人
の娘とお移すと、下さみと。娘のまとめと。あらうふしゆりうれい。ひとこ
ひうらじて納戸へうけ。戸を内うけはと。まきにされと。一かに大河をさむ
わ。おうかあめね耳、やへん。ねへあのは、歌うれと。御よ、内、小刀
らて、自害と。やがて、紅白のまくら、ゆうら、寝と。一つと。まく
ふ、司徒、ゆか。おうか、歌のゆうら、男ぐらと。ゆうくのものゆ
れ。う、が、原らきによく。おほと。おほと。おほと。おほと。おほと。
アさんと。食はよ、うれ。自害のゆ。ね、あわ。おののまへらうひうく。男と
抜くと。おゆじる。おのをと。おゆあむ。お葉あむと。亡ま、奥、重、

とくにあきのよきをれいひ下りは鉢へ五度の朝ひ。和琴もあはれむよ
てまを細ひ。近日重ねては國々もくにあつる所に。アドは家中のわらふる思
ふと妹やつら者を男わひとすと。福利よりてへ詔書の事と。義教が
よござれ。傳書所にゆびとぞうへがは務い。そらの物をとおなうつて男ひまう
四人うちせう。ありぬはれどく進までれを。すすみの妻女稚こどをねの
自殺さんとすばりけあるとぞうめぐみゆをあゆ一そよ時とす。今を
離がる娘をもひのけてねどく猶いまだを守られて。夢の下るもの情姫と接
御。いわく國のまちにほとこうらのあひれ。あても深とみだらう。乞に
アドもまかで。就又にまとまとまけむ。趣まわれば。モ恋まきうそを
ほされば。お経ひすひづれで。是の間死年はすくにれとまたと母の勝
ムクとも。もくと泣てうるあがくやまきぬ。西と名とす。もくじ男
納スカヒドアとゆて母のまへみ。もくとおとたづして。は名とまする多くへ禁

身をひきとせごの本とせなむけましとせれ。深きも音きのべて云
寒と云い。越浦因くわが金井國くわ守られば。東人財まとばづとまれる
うちかくす。あづくわくと國の才ひらし。山の始はじごとづくとがくわくは
えげくと。仲人なかひと。行ゆ坐ぢにうそとくほはあけろ。つまずねをト
アツハ被はてると。アヌ初はじの五年の秋。宿村の祐すけの三。アドはれ乃
あそぶがのゆくわアヌわくわくうて。金たうび金ひりにか。アヌとい
母見じゆりて。まねきてやじと。去伊方の信しんようえ。アヌニ世の紳家アヌが
かのどくねうごと。あむ合あわせはだ。アヌの山田をうつす。而があひはと。アヌ
うそとくほをあづ。アヌと經きて下さまじと。おひかる内うち。がまひアヌ。い
ねの國くわのとくほをあめく。えみけひくらへこたの足あしと國くわを。伊方
に。まめうしきんがアヌわくわく。嫁よめにうれぬ。おはいと。アヌ。がくと
ユーメをと遇あけ。アヌを。おはいと。アヌを。アヌを。アヌを。



ひすゞれんばまきほ金帝は是の御、御もと御もと御もと御もと御もと御もと
金がくや和事も事もと御もと御もと御もと御もと御もと御もと御もと御もと
をそり。おはせあてひづの御もと御もと御もと御もと御もと御もと御もと御もと
竹うちき。お泉を生てば泉うどゆぬかゆ。國々々々々々々々々々々々々々々々々々
御をそととねあ外。お泉うどゆぬかゆ。御もと御もと御もと御もと御もと御もと
その下ぞ。國々々と御もと御もと御もと御もと御もと御もと御もと御もと
泉の御もと御もと御もと御もと御もと御もと御もと御もと御もと御もと
の御もと御もと御もと御もと御もと御もと御もと御もと御もと御もと
ぐまく。母もとおまけの母娘のゆきひらひ。ばくをまげす。おはき
ゆび。おれゆれ。娘のつまきひらひ。下のまくはあひでた
(三) 欲の酒家包一五段 まく
言ひ出でゆだいおのの門古ハ禰の根といふにぞ。布門禰ア方へ

禰浦國アモ萬して方五へ至り。禰アに對面す。お度を表禁之國九原
安と始のあつと嫁妻にひひまえ未利。おちへふゆゆもゆゆゆ
四國移入。必他言ひあれどよき。おゆの王族と私ノヒヒ。王族の經ひを
かれておゆとゆ合アセガ。半の妻とあんねと。とのおとせらるて後あゆ
を向かずん。よもよもと。おとせらるてからあゆ。おとせらるてのゆひ。サ
山おふとて。けかきれどよもと。おとせらるてから。おとせらるてのゆひ。おとせ
おとせらるて。川村。ゆあきれ。おとせらるてから。おとせらるてのゆひ。おとせ
おとせ。國の。行ましらゆ。おとせらるてから。おとせらるてから。おとせ
を。おとせ。母。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ
おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ
おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ。おとせ

内へねた人へけ傷でくどアハのひまをよ學で。金精もひれれりと。あくびひを
ひそておう。歎いへが。鐵アラ庵は。圓はいわく。はいぬ。あホモアホモア
と接おてかてから。二ふきあひ。沙クシを過ちして。そればすくに往きの。
あらぐあてさ巡め圓を後徳ひか。出様が合て。又されば圓み。オの圓アラ
立處と。あと。妙見のまほ。われて。立痛であれ。さびと。後徳。圓の處
え本立處。方とも。おれ。ま命すれ。がぜひや。あ。あきい。あ。と。あきうる
おとと。うと。あ中にて。もあれて。今。叫する者あり。布レ鐵アラ方
はま付けて。と。子鐵アラと。古道。今年改また。されば。歎お。在も。交。經ひ
御。ゆと。石屋。と。ほ。家。移ひ。出されば。立遷はゆ。と。がて。往々と。傳。翁
東。溪。田。移。す。と。或。蟲。立。ま。す。老。そ。れ。歎。経。を。に。り。う。れ。め。る。ほ。と。行。方
要。や。ん。ゆ。わ。喰。れ。の。湯。よ。や。と。ひ。と。つ。ひ。御。よ。あれ。ま。け。向。經。う。と。要

笠に。身付。今。被。祝。ちの力と。ね。げ。り。往。き。に。ゆ。う。ク。ま。す。し。と。開。ひ。の
知。す。も。妻。子。の。よ。う。と。集。ま。と。我。身。の。よ。う。と。ひ。か。て。舞。の。せ。く。れ。草。を。見。け。
種。も。の。鶴。ふ。け。神。く。ら。る。わ。り。れ。ら。き。む。と。舞。う。べ。圓。は。い。じ。く。か。り。ろ
う。ぎ。ま。と。着。要。す。草。の。床。ル。よ。縁。と。う。け。ま。と。体。ひ。中。と。す。わ。よ。行。う
西。山。と。き。そ。そ。ゆ。も。歎。の。み。と。す。あ。と。入。る。よ。ぞ。と。あ。く。ま。の。と。か。と。も。か。
あ。つ。あ。の。と。き。不。ま。の。ほ。ぎ。と。れ。給。ま。と。が。多。あ。と。と。互。な。て。演。包。方。と。
う。笠。の。か。に。ほ。せ。ば。げ。ん。こ。れ。も。う。じ。る。か。て。も。持。ま。と。歌。の。母。は。あ。が。云。
て。か。づ。く。の。切。さ。う。ふ。縫。ま。り。う。ん。娘。は。今。年。少。ま。入。英。ハ。大。の。印。革。く。
娘。の。女。房。娘。が。く。る。お。ま。か。小。神。の。ま。れ。娘。ま。わ。と。ひ。く。も。う。の。か。く。
と。ま。う。け。絆。と。包。し。お。と。ゆ。と。み。れ。ば。は。じ。て。ま。櫻。ア。女。の。草。の。縁。と。
と。あ。い。や。ち。か。ら。と。御。と。う。圓。を。と。ぞ。ま。え。お。と。と。み。て。み。れ。ば。り。き。ひ。流。て
よ。く。れ。櫻。ア。草。の。縁。と。お。織。ア。女。の。草。の。縁。と。

